

第53回道南支部理科研究発表大会で遺愛1年生 米澤さんが総合賞を受賞しました！！

10月5日（月）に函館市亀田交流プラザで、北海道高文連第53回道南支部研究発表大会が行われました。参加校6校、参加生徒数56名・顧問11名の合計67名の参加で、遺愛からは11名の生徒が参加しました。

研究発表が3件、ポスターセッションが8件あり、函館西高等学校の佐藤裕之校長先生が審査委員長、函館水産高校の酒井徹夫教頭先生が審査委員として審査に当たって下さいました。遺愛が当番校で、五日市先生・原先生が庶務を担当し、午後の巡検では天気に恵まれ、遺愛の地学部顧問の雁沢夏子先生が大森浜の海岸調査体験を指導して下さいました。

審査は発表資料による事前審査と発表会場における当日審査を合わせて総合賞・奨励賞・努力賞の表彰が行われます。審査の着眼点も明示されており、事前審査では①発表資料のまとめ方。②調査・研究がどのように継続され、情報収集がはかられているか。③調査・研究の手段、情報処理などに創意工夫されているか。④調査・研究の技法や情報処理の技法などにすぐれたものがあるか。⑤調査・研究の結果に基づいた推論がなされているかがポイントになるとのことでした。当日審査の着眼点は、①発表の手段や方法は適切であったか（スライドの作成技術、使用法）。②発表の態度はどうであったか（発表時間は有効に伝えたか、発表説得力があったか）がポイントでした。

どの発表も素晴らしかったのですが、最終的には、遺愛高校1年生の米澤奈々珈さんと函館大学付属柏稜高校の3年生が総合賞



を受賞しました。先輩達から継承してきた研究に、さらに新しい資料と分析を加えていたところが高く評価されたのだらうと感じました。

2020年10月12日